



武蔵村山市立第一小学校 学校だより

令和6年1月9日



最高の誉め言葉

校長 押本 純樹

冬至を迎え、外はだいぶ薄暗くなっていました。2学期も余すところ一日となった夕方近くのことです。放課後教室が終わって、職員玄関に向かってくる男の子たちがいました。帰宅を急いでいるのか、あわただしさを感じましたが、どこかうれしそうな感じを受け、私はその中の一人に、「あと少しで冬休みだね。」と声を掛けました。そこにはクリスマスや年の瀬、お年玉がもらえるお正月が近づくわくわく感があると思ったからです。

ところが、意外にも「校長先生、冬休みなんか、なくていいよ。」とピシヤリと言いつ返されてしまいました。家庭的な背景が影響しているのかと心配しましたが、表情に沈んだところはなく、どこまでも明るく前向きです。どうしてと彼の言い分に興味をもって耳を傾けました。

今、彼は学校が楽しくて楽しくて仕方がないそうです。ずっと今の学校生活が続いてほしく、長い休みはいらないということでした。何がそんなに楽しいのか、さらに尋ねてみると、はっきりと「勉強！」と答えるではありませんか。休み時間に校庭で元気よく友達と遊びまわっている姿をよく見かける子です。これは、今までの見方を改めなくてはならないと反省しました。

学校に来るといろいろなことが分かって楽しいそうです。「冬休みも春休みもいないからね。夏休みだけでいいから。」と言いつ残し、外靴に履き替えて、友達といっしょに家路に着きました。最後の「夏休みだけでいいから。」の言葉に子供らしさを感じ、ほっとしながらも一年間の締めくくりとして、学校に対する最高の誉め言葉を本校の児童からいただきました。

みんながみんな、彼のように思えるわけではありません。個々の思いに違いがあつて当然ですが、年末になって冬休みを楽しみに思う気持ちは、子供でなくとも自然なことだと思います。それだけに冬休みより学校がいいと言つてくれた子が一人でもいたことがうれしくてたまりません。発達段階、家庭やクラスの状況、友達関係等、様々な要因があつてこそその言葉ですが、彼の本心と受け取っています。噛みしめながら、心温まる記憶として、私の中にいつまでも大事にしまっておくことにしました。

新しい年が始まりました。なかなかこういった場面に出会えることはありませんが、子供たちの期待に応えられる学校創りを今後も職員一同力を合わせて目指していきます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



今年もみんなで遊ぼう